ISSN 1346-2601 (Print)
ISSN 2436-5408 (Online) 2022 年 10 月 25 日公開

中井文庫本新出役者評判記　享保6年刊「都御なじみ男」の紹介

赤間 亮（立命館大学文学部　教授）
E-mail　rat03102@ritsumei.ac.jp

はじめに

奈良県御所市の中井家が所蔵する中井文庫は、二〇二二年一月に、アート・リサーチセンターの「バーチャル・インスティチュート」から『中井家コレクション　古典籍の世界』[1]として、全貌が公開された。同時に、アート・リサーチセンターの古典籍データベースから、本格的にオンライン一般公開をスタートした。中井文庫は、歌舞伎資料の宝庫であり、これまで他に所在が知られていなかった新出資料が存在する。「アート・リサーチ」22・2号には、赤本「笠はさま／／三度いせかさ」が廣瀬千紗子によって紹介されたが[2]、これは従来、まったく知られていないものであり、演劇史の一コマを解き明かす貴重な資料であった。今回、これに続いて、やはり新出資料となる役者評判記一冊を紹介したい。

歌舞伎研究の基礎資料となる役者評判記については、戦後、日本全国の歌舞伎研究者が共同研究を組織し、現存すべての評判記を翻刻・集大成するという大事業が始動した。現在、第一期（～享保20年(1735)、第二期（元文2年(1737)～明和9年(1772)）が完結し、第三期（安永2年(1773)～享和4年(1804)）の刊行事業が進んでいる[3]。第一期の刊行後に、新たに発見された評判記は、第二期の補遺巻に追加されており、これに従えば、第三期の補遺巻には、第一期、第二期にあたる時期の新出本を収めることになる。しかし、現時点で第五巻まで発刊された第三期の、最終巻となる補遺巻は、どんなに急いでも六年後以降の刊行となる。特に、第一期に含まれる資料の場合、絵入狂言本が刊行され、歌舞伎史の一つの山をなす元禄歌舞伎時代にあたり、研究活動も非常に緻密な情報収集の上で実施されている。この期の資料の情報共有は、できる限り迅速に行われることが望ましい。ここに、全文を翻刻して紹介する所以である。

1　書誌と概要

まず、簡単に書誌を記述する。

書名　「都御なじみ男」（内題、ただし、下巻の冒頭評の題名。正式題は不明。）
体裁　半紙半裁　10.9×16.4 cm　袋綴、全14丁半。
　原表紙、薄樺色。題簽欠。ただし、中央に題簽跡あり。
柱刻　「下　○　序」（1）、「　」（2，3）、「　○」（4）、「下　○」（5）、「下　○一」～「下　○七」（6～12）、「下　八○」（13）、「下　○九」（14）、「　」（15）
内題　「都御なじみ男」
挿絵　2丁ウ3丁オ、10丁ウ11丁オ　見開2面
所蔵　中井文庫
蔵印　「中井文庫」（1オ、15オ）
備考　刊記・奥付等は見当たらない。柱刻に「下」とあるように、上下2巻本の下巻1冊である。表紙見返しに所蔵番号枠印「「五三三」號」とあり。

本書冒頭の評文（1丁オ・ウ）は、大坂竹島幸左衛門座の大和山甚左衛門であるが、内題「都御なじみ男」のあと、「難波で大あたりゆ〈御しらせのために」と断りがあるように、長らく京都の劇場に出勤し、極上上吉の位まで上りつめた大和山甚左衛門が、

大坂に下って、竹島幸左衛門座での評判を、京都に向けて伝える評文である。内題は、この甚左衛門の評文の見出しと言ってよく、正式な書名は別にあると思われる。

2丁から5丁までは、京都の劇場(榊山座、沢村座、中村座)に出勤する若女方の評文で、芳澤あやめ以下、9人の評が続く。また、6丁目には、「是より太夫子共名寄」とあり、大和川辰弥以下、京都の劇場に出勤する若女・若衆方・子役64名を列挙する。従って、上巻には、立役、敵役、道外、親仁、花車などの評があるものと推定される。

刊記・奥付はないが、次のような理由で、享保6年(1721)正月の刊行と認定できる。

①大和山甚左衛門が大坂・竹島幸左衛門座に出勤するのは、享保6年度のみであり、また、享保7年刊『役者芸品定』(集成Ⅰ8179)により、享保6年閏7月19日に没していることが確認できる。

②2面の挿絵は、「五社☆蔵富貴☆」(名代:都万大夫)と「十二調子恵子宝」(名代:夷屋吉郎兵衛)が描かれるが、この二つの演目は、それぞれ、享保5年12月刊(推定)『京三芝居役者小評判』、享保6年正月刊『役者若咲酒』[4]に評文と挿絵が載り、「十二調子恵子宝」には、絵入狂言本[5]も残っている。これにより、享保5年11月に上演された演目であることが確認できるが、『役者若咲酒』の都万大夫座の挿絵には、「切ニ　濱田屋白☆夜寝　霜月廿二日ニ　替り」と替狂言の情報が出ており、本書は『役者若咲酒』より若干先行して出版された可能性もある。

版元は、『役者若咲酒』が八文字屋と江島屋の相版元であるので[6]、それ以外の版元が想定できるが、この時期、対抗する鶴屋喜右衛門は、八文字屋と同じく、京・江戸・大坂を三巻三冊という型式で評判記を出版しているため、可能性は低い。一方、京都の役者を上・中2冊に配し、下は、大坂と江戸の役者を混在させた『役者舞台小袖』[7]が、享保4年(1719)に京都の中島又兵衛から刊行されており、本書と同一の表紙色や、対話式を使わない評文、主要な役者以外を、役者紋を表示して列挙するなどの編集方針の類似性から、あるいは中島又兵衛が板元であった可能性を指摘しておく。

本書は、従来の役者評判記年表類にも掲載されたことがない。また、他の出版物の広告にも載ったことがない、まったくの新出本である。

2 『京三芝居役者小評判』『役者若咲酒』に掲載のない役者

本書は、上述の通り、『京三芝居役者小評判』『役者若咲酒』と同時期に出版された。そのため、掲載されている役者名などの情報は、重なってくる。しかし、この二点の評判記にある享保5年11月上演「新館福徳門」(名代:中村初太夫)の挿絵が、本書には欠けているなど、異同がある。本書の評文自体も、同時期二作品とは別作者のものと推定されるので、新たに出現した役者評として貴重であるが、本書だけに掲載されている役者がある点でも注目できる。上巻が残っていれば、さらに多くの異同があったはずである。

本書にのみ掲載されている「太夫子共」12名を、次に列挙する。

浅尾亀之助(榊山)　浅尾今都(榊山)　花垣千里(中村)
芳沢亀三郎(沢村)　花川作弥(榊山)　榊山玉岸(榊山)
沢村林之助(沢村)　藤田金重郎(沢村)　芳沢重次郎(榊山)
花山音之助(中村)　佐々木新四郎(榊山)　柴崎富五郎(沢村)

なお、細かなことだが、「波野江かるも」は、第一期『歌舞伎評判記集成』では、「波江」「浪江」の表記しかなく、よみがなは、従来「なみえ」としてきた。本書の事例を以って、「なみのえ」と読むのが適切としたい。第一期の「なみえ」姓では、「浪江小勘」がいるが、これも「なみのえ　こかん」と読むべきだろう。ちなみに、「なみのえ」姓では、他に「波の江金山」(Ⅰ5136)がいる。

3 翻刻

続いて、本文全体をここに翻刻しておく。翻刻凡例は、『歌舞伎評判記集成』第三期に従ったが、改行は、原本通りとした。漢字コード表にない、いわゆる外字は、☆で表記した。なお、アート・リサーチセンター古典籍ポータルデータベースに搭載されている本書の各ページ画像にも翻刻本文が登載済みである[8]。

都御なじみ男

難波で大あたりゆゑ御しらせのために

（紋）大和山甚左衛門　大坂　竹島幸左衛門座

名残をしとふ大和山．今はなにはのふゆこまり．はや
顔見せと咲花の．都の方へかほり来る．大々あたりのその噂．
見ぬ京物かたり人々の御悦び．是ぞひとへに．御なじみの
御ひいきつよき甚左殿．御下りのあと／／迄．かやうに弥眉は
御悦慶．先御下り．のりこみ駕籠にのらずして．上下に
むしやわらんぢ．かごをつらせて八けんやより．芝居まで御あ
ゆみは．なには中を立てのなされかた．是名人のしるし．扨竹島
座の御勤霜月二日よりかほ見せ．大名錦の草ずりに．御
役は若殿のめのと助十郎と成．すあたまに上下の出端．京大坂
両都を兼ての一ていよし．御家の鎰．家老宮内佐川文蔵（序1オ）
殿に渡さるゝ所．にせ物とがてんいたされぬを．誠の鎰と云ふせ
わたさるゝ所．和を兼て実あつはれ／／．次に京でなされし
六役のげい．三役なさるゝはちゑかな．初は藤や伊左に成．大臣
風に頭巾を見物へうかゞい．きらるゝ所大あたり．次に勘介
殿を相手ニして．間の山は去春嵐殿平十殿しんくしておかれし
跡ゆへ．さのみもなく．次に勘介殿に一中ふしかたらせ．御家のかみ
子すかたで介六と成．京でたき江殿いたされし所．佐の川
花つま殿あいてに大あたり．次にわん久の所作事．諸見ぶつ
目をおとろかし．此所さて／／大大あたり次にぶん蔵殿
宝蔵へ入．たからをぬすみ出らるゝを始終見．すまし．
すどをけやぶりしいきをい．文蔵殿を切付．たからをとり
かへさるゝ武道大でき．此たびはなには中を．一請にしての大
あたり．さすがは都の名物伝授紙子うけし人ほど
有と．はし／／まてとりさた．耳塚まで聞へ
しゆへ．これをしるすのみ（序1ウ）

▲若女形之部

○これより風景見たて左のことし

げいにくもりなき風

くまなき月　（紋）芳沢あやめ　榊山座

三国伝来大上官．せんだん后女香の高きあやめ様．
いつもさゝぎでをきたい御姿といひしもことはり．今とう
代の諸見物．しあはせ成世に生れ合．かやうなる御
名人を下直で見るにもつたいなし．まことなるかな．今のよに
古今ひるいなき御上手末世にも又出現有まじくと．
後の世のかたり句にもなれかしと．しばいずきの
おやぢか年代記にしるし置ふとは．尤ぞかし．明年は
榊山座へ御のほり．当かほ見せ御役は．めのとこわたと
成．御子息さきの介殿松しま殿相手になり．小四殿
ほめらるゝ所よし．次になにはで金作殿相手にいた
されし．かわち通の三だんめ．かきつばたの所．たきゝ殿（2オ）
（2ウ）
（3オ）

〔挿絵第一図〕
〔挿絵第二図〕

五社☆蔵冨貴☆（ごしやのよねぐらふつきのあいむこ）　みやこ万太夫

三上縫右衛門ニ　松本友十郎

八くも彦のしんニ　藤田九八郎

岩垣十郎平ニ　片山小左衛門

大うら源八ニ　染の井半四郎

大でき

鏡山若之介ニ　勝山介十郎

お梅ニ　山下亀の丞

けいせい玉きしニ　大和川たつ弥

てかけおかね　清さき半太夫

しがらきぐん太左衛門ニ　宮さきぎ平太

八重梅冨太郎　さわ村みね五郎

大うら定右衛門　山村歌左衛門

玉松いなは介ニ　沢村長十郎

大当り

あねおさゝ姫ニ　きりなみをのへ

かごかき新兵へニ　玉川源三郎

けいせいうたまきニ　山本かもん

挿絵第一図

挿絵第二図

とつめひらきのせりふ．さて／／爰一ばん大々当り．切に
しばられて．心をくばらしてのおもひ入いやはや妙成
かな．ことばに乗（のせ）られず．今三ヶ津の極極．極無類御名人

あつはれすゞやかな風

岩間（いわま）のいづみ　（紋）霧波滝江　榊山座

今みやこで芳沢どのに．つゞひての御名人になり
給ふ．過し大和山とのあい手にて．あたりをとり給ふ．
近年はせわ事やつしを．あふくあそばし．御いゑの
武道はさのみあそはさずして．ひやうばん取給ふは．是ひと〳〵
にげいのこうしやならずや．当かほ見せは榊山座の御
つとめ．お役は家老たてわき柴さきとの．女ばうくもゐと成．
かくまいおきしひめきみを．うつてつかはせとのふみ．柴さき
どのより来りしを．見ておとろかるゝ所できました
ふみえそゑしかきつばたの．はんじやうにたりやにた
り花あやめ殿にすこしもおとらぬ大当おてから／／（3ウ）

しとやかくらい有風

みすにからね子（こ）（紋）山本かもん　沢村座

都の地をはなれ給はぬおなしみふかきかもん殿．おそらくけいせいふうは．松の
位そなはつた太夫様．ほんの太夫しよくも．此君のまねはよも成まい．
当かほみせも打つゞき万太夫座御つとめ．お役はけいせい歌まきと
成．かぶろ共に．かみこすがたて．けいせいとは新（あたらし）きしゆかう．尾上殿かみ
この．ゐんゐんをとはれ．はなさるゝ所もつたい有てよし．思ひがけなく長十

どのにあい．よそ事にたとへ．わが身のうへしらさるゝ所．御家程あつて．
できました．明年は珍らかな長十殿に出合．八重桐殿より猶できませふ

しつほりとこなれた風

山辺のゆき　（紋）袖崎和歌浦　中村座

明年は重巻殿と相座本．めで度しも月十三日より．顔見せ評判よく．
御大慶に存る．此度の御役は．大しま殿むすめおかねと成．我おや悪
にくみせし故．夫彦五殿．るゐん切給ふをまへのごとく．女ばうに持給はれと．きた
らるれど．彦五殿がてんいたされぬゆへ．大しま殿腹切善心ニ．立帰り．むな（4オ）
しく成給ふとき．かいげしやくのゐにて．わがおやのくびつき給ふ所．新敷
我ゆへしゝ給へば．我はおやころしと．だん／〻／のうれい．きゝ事できました．武
道も所作も．やつしもよく致さるゝ．今年中は大かた．あやめ殿ふう
にて．いたされしがおなじくは．まへ／／のことく．一ぶんのげいて当を待申

大ばにしてゆつたりとした風

うな原の月　（紋）松本繁巻　中村座

去冬大坂より御帰りなされて．沢村座にて評判よく．当かほ見せはわか浦
殿と．相座本珍重に存る．此度の御役は．からうしがのせう歌流どの．
女はうにたつみと成．にせゆうれいのはなし．こわがらるゝ思ひ入よく．後に
夫歌流殿へ．喜世太殿ゆびを切やられしを．はら立らるゝ所．のつ
しりと家老の御内義らしくできました．惣じて此度はたのみの御役もなし．
二のかはりにはよろしき御役をまつもと様

をくゆかしいじんじやうな風

遠山のさくら　（紋）山下亀之丞　沢村座

難波より御帰りいつ見ましても．にくからぬ御風俗げいも次第に．御（4ウ）
こうしやに成給ふ．当かほ見せも万太夫座の御勤．御役は宮さき
殿いもとお梅と成．いひかはせしおとこ．半四殿をほこりおとしへ．かく
さるゝてばしこさよし．友十殿むたいにくどかれるをいやがり．ほこりおと
しへ．心をうつしての思ひ入よし．後に長びつより．半四殿と出歌左殿ニあい
胆をつぶしいまだ敵に．めぐりあはぬとの．一通いわるゝ所．よくいたさるゝ．
去年よりはげいはんなりと見へます．何とぞ二のかはりには．まへの様
な．あたりをとりたまへ．おなじみのかめ様御ひいきに存る．すうわり

いやみないげい

ほまれなたかひ風

うたの中山　（紋）上村吉弥　中村座

久々にて当正月より．沢村座へ御上りなされ評判よろしく．げいしやんとして
りゝ敷身の取廻しよく．当顔見世は中村座の御つとめ．お役は百人一首殿．手
か懸おさごと成．いひな付の姫大次どのに．ふぎ有といわるゝ所しつとりとして
よし．次ににせゆうれいのしよさ．御家程有て見事．諸見物二の替を見る様
なと評判有リ．しゆかう新敷ゆへ．あたりました．次にぎざ殿に．見とが
められ．めいわくからるゝ所よし何なされてもりこうなけいじや（5オ）

見よげにしてやさしひ風

ひあふぎニ夕がほ（紋）菊川喜世太郎　中村座

さあ都御存のきく川殿．ごけの娘で大当で名を取．一両年．なには御下り．
げいよほどみが入給ふ．当かほみせ中村座へ御上り．御役は百人一首殿いもと

若松姫と成．歌流殿へぬれの思ひ入．おぼこでよし．恋にせまり誠を．見せんとゆび切給ふ所．しとやかでよし．次にゆびのせんぎに成．其ゆびはおれが切て．歌流殿へやりしといわるゝ所．さて／＼あどのふ見て当ました．次におやのあくしんを．とめんが為．ちりやくにほれたとのいひほどきよし．春はおしゆん程な当を取給へかし

おこるもつはらな風

野辺のすゞむし（紋）清崎半太夫　沢村座

風ぞくじみやかにして．なにあてがふても．あぶなげのない御上手．打つゞいて万太夫座の御つとめ．当かほ見せ御役は．宮さき殿てかけおかねとなり．わかとのみね五どの．たすけんためつれて立のかるゝとき．かめどのに．見とがめられ給ふ所．うちついてよし．諸げいよくこなされ給ふ．第一おこゝがよいゆへ．いつとても二のかわりには．此きみこうたか．さいもんで．でかされ給ふ

（5ウ）

是より太夫子共名寄

うきよ

もむ

あわせ

（16オ）

恋に手つよい風

松に藤（紋）大和川辰弥　沢

おもしろいすいた風

花下の盃（紋）芳沢千菊　榊

ゆるやかなる顔な風

池にをし鳥（紋）坂東冨之助　沢

つよからずよはからぬ風

水辺の柳（紋）浅尾亀之助　榊

しつかなしんひやうな風

雨夜のかわづ（紋）藤田三五　中

ながめしほらしい風

蘭にうく露（紋）尾上右近　沢

にきやかしこなした風

竹に村すゞめ（紋）榊山藤三郎　榊

ゆたかにのとやかな風

沖のかもめ（紋）早川多門　中

（16ウ）

菊の花

うつりし露の

はなの顔

うらなくしたふ

君農

俤

（17オ）

梅かえを

きるぬ

雪とや

ながめまし

きみに見せはや

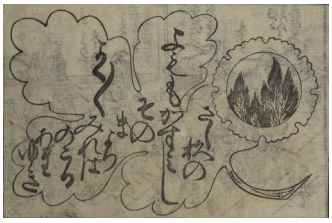
けふのいとゆふ

（17ウ）

やさしひ色ある風
籬に卯の花　（紋）瀬川菊之丞　榊
をくゆかしいもつはらな風
むぐらに琴の音（紋）上村吉三郎　沢
どこやらんゆかしい風
奥山のもみぢ　（紋）山本鶴太郎　沢
すねたしやれ気な風
香林の松　（紋）水木染松　榊
るゑん有つまかふ風
紅葉に鹿　（紋）花染島之助　中
名をきいてにくからぬ風
祇園はやし　（紋）浅尾今都　榊
いさみ有りつはな風
滝に鯉　（紋）大島門之助　中
すいらしいしつとりとした風
垣ごしの梅もどき（紋）玉川市弥　榊　（三8オ）
美けい見事な風
筆すて松　（紋）霧波尾上　沢
芸にまかせて上る風
風に紙鳥　（紋）尾上菊三郎　沢
香のあるきやしやな風
梅がゝに香箱　（紋）玉川小ざつま　榊
あいらしいかしこい風
菊に蝶　（紋）花垣千里　中

うちついたしつかな風
志賀の夜雨　（紋）芳沢亀三郎　沢
さてもやさしひ風
沢辺のほたる　（紋）大島門太郎　中
しやんとしのはしい風
袖に立花　（紋）沢村峰五郎　沢
はやくもさかするあい有風
早咲の椿　（紋）浅尾今久松　沢　（三8ウ）

さし杉の
よももかすみし
そのまより
よく〳〵みれば
のこるあわゆき（四9オ）



〔挿絵第三図〕（四8ウ）
〔挿絵第四図〕（五9オ）

色はあつて実のない風
瀬の山吹　（紋）花川いせ野　中
名とり御そんしの風
高尾の紅葉　（紋）水木政野　榊
すなをよい気な風
桜にたんざく　（紋）花川作弥　榊

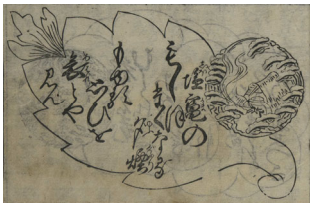
大殿　めのと小わた二
花その兵部大夫　吉沢あやめ
山田甚八　大々当り
かきつはたの所　藤内治部之進
大々当り　藤川武左衛門
たてわき　大てき
女ぼうくも井二
霧波たきゑ
鳴たき　藤内定次郎
源五右衛門二　榊山四郎太郎
嵐三十郎
大でけ
きぬがさ
三左衛門二
立岡染右衛門　藤内権太郎二
榊山小四郎

十二調子恵子宝（ちうにてうしめぐみのこたから）　夷屋吉郎兵へ座
八ちよひめ二　大橋伴左衛門
瀬川菊之丞　山中猶十郎
みたらし
うだ右衛門二
吉田十郎兵へ
酒二よい
ねている
あしがらたてわき
柴崎林左衛門
つるがき半六二
藤川平九郎
浅香新之丞二
山本小しきぶ
太郎介二
松島茂平次

挿絵第三図　挿絵第四図

一声あつてかはいらしひ風
三光の鶯（さんくわうのうぐいす）　（紋）立岡久菊　榊
すゞからぬ思ひつく風
花壇（くわだん）にしやくやく（紋）　山本源之丞　榊
ひんなりとさらりとした風
ゆりのはな　（紋）袖崎妻之助　中
花々しいきをいある風
ぼたんに獅子　（紋）芳沢竹五郎　沢
さかしいしなやかな風
雪中（せつちう）のきく　（紋）榊山玉岸　榊　（五10ウ）

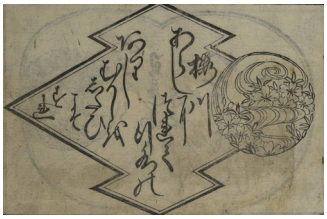
塩竈（しほがま）の
もしほ
たくなる
夕煙（ゆふけぶり）
もゆる　思ひを
哀（あはれ）とや見ん　（六11オ）
藤（ふち）の花
むらさき
にほふ
下風（したかぜ）に
むすびとめたる
こひのたまづさ　（六11ウ）



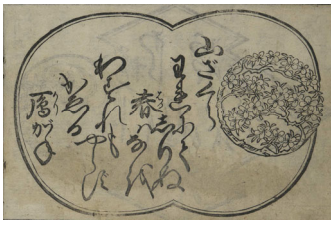
物しづかなついついた風
しくれに蔦の葉（紋）芳沢崎之助　榊
太夫位ゑんある風
松に初霜（紋）柴崎百太郎　中
ほつとりとすいた風
橋に杜若（紋）松本八津三郎　中
一つけいすゝしい風
美女がたき（紋）山本歌松　沢
きよふそたちな風
御手洗の水（紋）上村菊太郎　榊
愛有しつこからぬ風
菊のませがき（紋）沢村林之助　沢
思ひ入すてらぬ風
床のなげ入（紋）菊川和田五郎　沢
わつさりとあいきやうな風
春野の小鳥（紋）藤田金重郎　沢（七12オ）
のどかにしやんとした風
ひはりに糸ゆふ（紋）篠塚政之助　中
ふだんしつほりとした風
富士の雪（紋）宮崎竹三郎　榊
きれいさわやかな風
氷にもみぢ（紋）沢村吉三郎　中
しんとして思ひまさる風
山寺の鐘（紋）松山大吉　沢

すいなにくけのない風
軒端の梅（紋）藤田蔵之助　中
わこうこなれた風
波にうさぎ（紋）山本小しきぶ　榊
けいきのよいはつとした風
花見まく（紋）芳沢重次郎　榊
うれしいすなをな風
文に片袖（紋）花山音之助　中（七12ウ）

桜川
あらしにつれて
行水の
ありし
むかしを
したひこそすれ（八13オ）



山ざくら
われにてしりぬ
春はなを
わすれもやらず
かゝる
雁がね（八13ウ）



御きりやうくらいある風
井上に桐（紋）藤田大次郎　中

十五夜の月　いつもてこゝちよひ風
（紋）菊川京之助　沢
やかましいにきやかな風

林にせみ
（紋）滝井万太夫　沢
はつねしほらしい風

梅にうくひす
（紋）菊川しのぶ　沢
あしからぬおほこな風

難波の入江
（紋）浅尾常松　沢
いきこみきつとした風

梅に竜
（紋）早川小勝　中
花れいなりゝしい風

菊の会
（紋）和歌山庄松　中
きやしやすへたのもしひ風

霞にちとり
（紋）佐々木新四郎　榊　（九14オ）
花やかなむすめ風

まどに蘭木
（紋）波野江かるも　榊
愛しらしいしたわるゝ風

杉にをだまき
（紋）藤田小三郎　中
はてに見へてやさしい風

秋野の草
（紋）花川さもん　榊
すうわりと愛しらしい風

柳につばめ
（紋）滝井数馬　沢
はしかいうつりのよい風

藤の下かげ
（紋）坂東豊三郎　沢
いきをいはりのかひ風

竹に虎
（紋）榊山たもん　榊
とをめも見さめのせぬ風

岩根の切島
（紋）山本くも井　沢
うるはしいおもわくな風

うへごみに芥子の花（紋）柴崎冨五郎　沢　（九14ウ）
あさがほの
せきよふ花に
おく露も
せゝにこゝろを
まといこそすれ　（15オ）

中井文庫の文庫主・中井陽一氏は、平成4年6月16日にご逝去されました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

〔注〕

1）「中井文庫の世界」https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/vm/nakai/
なお、本サイトは、中井陽一氏の修士論文（立命館大学文学研究科文化情報学専修・成果物型、二〇二二年）である。リンクしたデータベースから、すべての中井文庫の古典籍を閲覧できる。現在、同家所蔵古文書についても、筆者のプロジェクトとしてデジタル化を進めており、これも本サイトを入口として閲覧可能とする計画である。同文書を研究テーマにした中井陽一氏の博士論文（関西大学文学研究科・二〇一二年）も、本サイト（関連リンク）から閲覧できる。

2）広瀬千紗子「中井文庫蔵　赤本『笠はさま／／三度いせかさ』とせりふ正本」

（「アート・リサーチ」22・2号、2022・3）。本書は、https://www.dh-jac.net/db1/books/nakai1222/portal/で閲覧できる。

3）役者評判記刊行会編『歌舞伎評判記集成　第三期』（和泉書院）

4）『歌舞伎評判記集成』第一期・第八巻。

5）慶応義塾大学図書館蔵。

6）『京三芝居役者小評判』は、刊記が欠けているが、江島屋・八文字屋の出版広告（『役者若咲酒』を含む）が載るため、これも二軒の相版と推定したい。

7）『歌舞伎評判記集成』第一期・第七巻。

8）本書の全丁は、次のURLから閲覧できる。
https://www.dh-jac.net/db1/books/nakai0533/portal/
また、縦書表示の翻刻本文全文のURLは次の通り。
https://www.dh-jac.net/db1/books/alltext-plain.php?fl=nakai0533&enter=portal